

令和6年度
外部評価報告書
＜概要版＞

令和7(2025)年3月
八戸工業大学外部評価委員会

目 次

I. 八戸工業大学外部評価の総評と提言	1
II. 個別の評価結果及び各委員からの評価とコメント	2
III. 八戸工業大学外部評価委員会の実施について	3
IV. 八戸工業大学外部評価委員会 記録	5
V. 資料一覧	7

I. 八戸工業大学外部評価の総評と提言

令和6年度の八戸工業大学外部評価委員会は、令和7年2月13日（木）に八戸工業大学大会議室にて対面形式により開催された。事前資料とともに提示された評価項目について、大学側からの説明があり、それを踏まえて質疑応答が行われた。外部評価委員は、事前に送付された資料を基に評価したうえで、委員会当日の説明と協議により総評とした。

以下、外部評価委員会の総評および提言を示す。

八戸工業大学 3つのポリシーを踏まえた取り組みの自己点検・評価活動について

これまで、八戸工業大学は産業を支える技術者育成を使命とし、産官からの期待と要望に応えるべく高等教育機関としての役割を担ってきた。しかしながら、少子化や加速的に進む人口流出などの社会が抱える課題や、文部科学省の制度転換などにより、大学を取り巻く環境は厳しさを増す一方である。

このような状況下において、八戸工業大学では、ディプロマポリシーに掲げる人材育成の達成に向け、カリキュラムポリシーに則った教育を展開し、学生の満足度を継続的に向上させ、独自の発想と工夫を重ねながら、授業改善を模索している。また、一定の入学者を確保するというアドミッションポリシーを掲げ、長年の蓄積データを基に入試の妥当性についても検証し、評価基準の適正化を図っている。このような、一連の活動を継続的に進めている結果が、卒業生の満足度向上に繋がるとともに、採用企業からの評価にも表れていると推測する。PDCAを回し、実行・チェックしており、3つのポリシーが連動して動いていることがうかがえる。

一方、社会の実状に応じた教育体制の発展的検討や、学修成果の可視化により導き出される課題については、改善活動の継続を期待するものである。

上記のことから総合的に判断し、八戸工業大学では3つのポリシーを踏まえた取り組みの自己点検・評価活動について、詳細かつ適正に実施していることが確認でき、今後の改善が望まれる事項を含め、概ね適切であると評価するものである。

なお、「3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動」項目とは異なるが、地方私立大学が抱える課題である入学者確保について、八戸工業大学においても重要課題であることは明白である。刻々と変化する社会状況に対応可能な人材を育成し輩出することは、産官が八戸工業大学へ大きく期待しているところであろう。教育の質を担保し、技術者育成に向けた高等教育を継続するべく、入学者確保に繋がる新たなアプローチの検討に期待したい。

令和7年3月31日

八戸工業大学外部評価委員会
委員長 土屋 範 芳

II. 個別の評価結果及び各委員からの評価とコメント

1. 八戸工業大学 自己点検・評価活動状況について

- A (3点) 適切、十分である
- B (2点) 部分的な改善が望まれる
- C (1点) 不適切、不十分であり、早急な改善が必要

評価：2.4点 (各評価員の平均)

評価ポイント (改善点・要望等含む)

- 学修成果点検・評価、入学者選抜点検・評価については、いずれも豊富なデータを収集・分析しており高く評価できる。
- 留年者数・率について入試別の分析はできているが、コースによるバラツキの原因究明が必要である。
- 入学者の激減はさまざまな問題を生じさせている。増募の取り組みが必要であろう。
- 授業ならびに就職支援については、適正に行われており高く評価できる。
- 目標値の設定について、今後さらに改善が必要と思われる。
学習成果点検・評価：留年者数(率)の目標値とその設定の妥当性
留年に至る前の学校側の具体的アラーム・対応
卒業生アンケートは対企業もさることながら、対卒業生本人へのアンケートを実施し、企業マッチングの視点から検討。
→委員会当日質疑応答による、説明
- 入学者選抜点検・評価：入学者数減少は県内学校共通の課題であるが、入学者数目標と強化すべき取り組みの検討。
→委員会当日質疑応答、意見交換
- 高校時代に学習する姿勢が備わっていない場合、入学後の支援や対応の強化策について報告いただきたい。
→委員会当日質疑応答による、説明
- 「学修成果」「入学者選抜」の整理分析は多岐にわたる分析項目と長年のデータ蓄積からのものであり、評価出来る。
- 学生の留年休学等数は軽減傾向を讀取れないが、対策として学生個別支援や数値目標を定めたことは評価する。
- 企業アンケートから卒業生の達成度が好評価を得ている事などが分かり、3つのポリシーによる教育が成果として表れているものと推量する。
- 授業評価アンケートでは、前年度と比較して全項目で上昇傾向が見られており、特に「理解度」や「学力向上感」等については、一昨年度から継続して上昇していることから、独自の発想と工夫を重ねながら、授業改善を模索した結果であると高く評価できる。
- 特に2学年において留年者数・率が高水準で推移していることから、学習環境のさらなる向上を期待する。
- 学生の正課及び正課外教育への取組具合や満足度等が低くなく、採用企業からの評価も高いことを踏まえて、貴学の取組は高く評価できる。
- 留年・休学・退学は学生個々の事情が大きいと思われるが、昨年度同様にきめ細かに個別の対応を行っている。今後も支援及び分析することを通じて組織的対応の可能性を模索していくことを強く望むものである。
- 「入学者選抜」について、特に総合型選抜における面接担当者間の評価基準の適正化が図られた点は、高く評価できる。次年度以降も更に安定して継続していただきたい。

Ⅲ. 八戸工業大学外部評価委員会の実施について

1. 八戸工業大学外部評価委員会規程

八戸工業大学外部評価委員会規程

令和元年12月19日 制定（自己点検・評価運営委員会）

令和4年 1月27日 改定（自己点検・評価運営委員会）

（目的）

第1条 この規程は、八戸工業大学自己点検・評価取扱要綱第5条第3項に基づき、八戸工業大学外部評価委員会（以下、「委員会」という。）の組織および運営について、必要な事項を定める。

（業務）

第2条 委員会は、評価項目に関する自己点検の報告を受け、本学の教育研究水準の向上および組織ならびに運営活性化に資するための提言を行う。

（評価項目）

第3条 八戸工業大学自己点検・評価運営委員会（以下、「運営委員会」という。）は評価項目を学長に提案し、学長が決定する。

（組織の構成）

第4条 委員会委員は、学校法人八戸工業大学の役員および教職員ではない、次の各号に掲げる者から学長が選考し、委嘱する。

一 大学等の教育機関の教員

二 八戸工業大学の所在する地域の関係者

三 前各号に定める者以外に、大学に関して広くかつ高い見識を有する者

2 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員長は、委員の中から学長が指名する。

4 副委員長は、委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

6 委員会には、学校法人八戸工業大学の役員及び教職員より、点検・評価に責任を持つ専任教職員が必要に応じて陪席する。

（委員会の運営）

第5条 委員会は、学長の要請を受けたとき、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の委員会は、委員の過半数の出席がなければこれを開くことができない。

3 委員長は、議長となる。

4 委員長は、評価の結果および改善を求める提言事項を外部評価報告書にまとめ、学長に提出する。

（守秘義務）

第6条 委員は外部評価に関わる業務を遂行するにあたり知り得た事項について、これを第三者に漏洩してはならない。

（事務局）

第7条 委員会の事務は、八戸工業大学社会連携学術推進室が行う。

（既定の改廃）

第8条 この規程の改廃は、運営委員会において、決定する。

附 則

この規程は、令和元年12月19日から施行する。

この規程は、令和4年1月27日から施行する。

八戸工業大学外部評価委員会

2. 委員一覧

令和7年2月13日現在

八戸工業大学外部評価委員会委員名簿

- ・委員 土屋 範芳 八戸工業高等専門学校 校長
(委員長)
- ・委員 佐々木 郁夫 八戸市 副市長
- ・委員 桃井 透 一般社団法人 青森県工業会 会長
(富士電機津軽セミコンダクタ株式会社 特別顧問)
- ・委員 八木澤 聡 公益社団法人日本技術士会
東北本部 副本部長 青森県支部 支部長
(東信技術株式会社 専務取締役)
- ・委員 種市 朋哉 青森県立八戸北高等学校 校長

(順不同)

3. 八戸工業大学外部評価委員会

令和6年度 八戸工業大学外部評価委員会

日時: 令和7年2月13日(木) 13:00~14:20

会場: 八戸工業大学 2号館3階 大会議室

< 次 第 >

1. 学長挨拶 : 八戸工業大学 学長 坂本 禎智
2. 委員長挨拶 : 八戸工業高等専門学校 校長 土屋 範芳
3. 令和6年度八戸工業大学外部評価委員会 (進行: 土屋 範芳)

- 1) 3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動 について (質疑含め各20分)

学修成果について . . . 学長補佐・教育・学生支援部長 阿波 稔

入学者選抜について . . . 入試部長 高橋 晋

- 2) その他

以 上

IV. 八戸工業大学外部評価委員会 記録

- 日時 : 令和7年2月13日(木) 13:00 ~ 14:25
- 開催形式 : 対面・書面
- 出席 : 委員長 土屋 範芳 八戸工業高等専門学校 校長
 委員 桃井 透 一般社団法人 青森県工業会 会長
 (富士電機津軽セミコンダクタ株式会社 特別顧問)
- 書面出席 : 委員 佐々木 郁夫 八戸市 副市長
 " 種市 朋哉 青森県立八戸北高等学校 校長
 " 八木澤 聡 公益社団法人 日本技術士会東北本部 副本部長
 青森県支部 支部長
 (東信技術株式会社 専務取締役)
- 陪席 : 八戸工業大学 坂本 禎智 (学長)
 " 金子 賢治 (学長補佐 / 地域産業総合研究所長 / 社会連携・研究推進部長)
 " 阿波 稔 (学長補佐 / 教育・学生支援部長)
 " 高橋 晋 (入試部長)
 " 皆川 俊平 (社会連携・研究推進部推進監 / 入試部専門監)
 " 古川 純也 (社会連携・研究推進部 課長)
 " 大野 和弘 (社会連携・研究推進部 参事)
 " 西村 恵 (社会連携・研究推進部)
 " 佐藤 南 (社会連携・研究推進部)
 " 黒滝 泰世 (社会連携・研究推進部 / 地域産業総合研究所)
 " 菅野 優子 (地域産業総合研究所)
 " 上野 黎香 (大学・高専機能強化支援事業)
- 資料 : 1. 次第
 2. 出席者名簿
 3. 会場座席表
 4. 八戸工業大学 外部評価委員会規程
 5. 3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動 について (一式)
 6. 学修成果点検・評価 当日追加資料
 7. 事前評価結果集計一覧
- 進行 : 社会連携・研究推進部 西村 恵

1. 学長挨拶 : 坂本 禎智
 高等教育機関における外部評価の重要性と委員会の目的や大学の現状等を交えて、委員へのお礼と挨拶が述べられた。
2. 委員長挨拶 : 土屋 範芳
 外部評価の在り方と意義、八戸地域における現状と課題、高等教育機関の連携と今後の教育への考察を交えて、挨拶が述べられた。

3. 令和6年度八戸工業大学外部評価委員会

議事進行 : 委員長 土屋 範芳

1) 3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動 について

学修成果について 学長補佐 / 教育・学生支援部長 阿波 稔

八戸工業大学における3ポリシーの位置づけと点検評価活動について、全体的な説明ののち、学修成果や教育成果の可視化とそのデータに基づく点検・評価活動について、資料を基に説明がなされた。

入学者選抜について 入試部長 高橋 晋

八戸工業大学の入試における選抜方法等について、入学試験の成績や高等学校での評定平均値、入学後のGPA値との相関などを基にした、妥当性の検証に関する資料を基に説明がなされた。

2) その他 【意見交換】

国の政策として理工系分野に係る人材育成が掲げられ、青森県の対応でも地元定着に向けた動きが著しい情報系分野について、教育機関の現状・課題と一般企業の動向予測を踏まえて意見交換がなされた。

4. 委員長講評

授業や就職支援、学生の正課・正課外活動への取り組みなど、八戸工業大学の活動は高く評価できる。授業評価アンケート結果が継続的に上昇していることや、企業アンケート結果から卒業生の達成度が高いことも、3つのポリシーに基づく教育の成果を示すものと推察される。また、毎年度、入学者選抜方法の妥当性を検証し、評価基準の適正化を図っていることも評価すべき点である。

入学者数減少は県内大学共通の深刻な課題であり、全国的な大学入試の変化や学生の首都圏志向などがその要因として挙げられる。そのような状況下で、八戸工業大学は、中学生からの啓発活動や女子学生を対象とした取り組み、地域産業界との連携強化など、様々な対策を講じている。

今後は、産業育成と人材育成を総合的に行うため、地域自治体・産業界や高等教育機関とこれまで以上に緊密な連携強化が求められる。より広域からの学生募集や、親元を離れて学びたい学生へのアプローチ、また、県外に流出した優秀な人材が将来的に県内に戻ってくるような、開かれた受け入れ体制を検討・構築していくことを期待する。

以上で議事が終了した。

V. 資料一覧

●点検・評価資料

- ・外部評価委員会評価項目について
- ・自己点検評価結果「3つのポリシーを踏まえた取り組みの自己点検・評価」
 - 学修成果 【学習成果点検・評価】
教育改革専門委員会 教学データ分析・整理
 - 入学者選抜 【入学者選抜点検・評価】
令和6年度 入試 IR 入試妥当性の検証

●根拠資料

- ・学修成果の可視化に関する自己点検実施状況
 - 【資料1】GPA分布、成績評価分布
留年せずに4年間で卒業した学生の卒業時の累積GPA分布と2023年度在籍学生の成績評価分布
 - 【資料2】授業外学習時間
1週間あたりの授業外学修時間に関する経年変化
 - 【資料3】授業評価アンケート経年変化
全科目を対象に授業評価アンケートを実施した結果の経年変化
 - 【資料4】満足度アンケート
4学年時後期1月～2月に実施する満足度調査アンケート集計結果
 - 【資料5】卒業生アンケート経年変化
卒業生対象アンケート結果における卒業生主観評価と企業評価の経年変化
 - 【資料6】卒業生に関するアンケート集計結果
他大学卒生との比較、及び企業が重要視する20項目の修得因子から本学学生に向けた教育活動等の改善を検討する目的として実施した令和5年度集計結果

●参考資料

- ・根拠となる各規程と基本計画他
 - 【参考資料1】八戸工業大学ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッシヨオン・ポリシー
 - 【参考資料2】八戸工業大学アセスメント・ポリシー
 - 【参考資料3】機能的な内部質保証のためのシステム・組織
内部質保証のための学内システム・組織（PDCAサイクル）一覧
※継続実施
 - 【参考資料4】八戸工業大学中長期目標・基本計画（HIT Grand Design 55）
＜概要版＞
 - 【補足資料】関連用語集